

令和2年度第2回岩手県政策評価専門委員会

(開催日時) 令和2年10月29日(木) 9:30~11:30

(開催場所) 岩手県庁 12階特別会議室

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 令和2年度政策評価等の実施状況について
 - (2) その他
- 3 閉 会

出席委員

吉野英岐専門委員長、斉藤徹史副専門委員長、市島宗典委員、工藤昌代委員、
竹村祥子委員、西田奈保子委員

欠席委員

なし

1 開 会

○北島政策企画部政策企画課評価課長 令和2年度第2回岩手県政策評価専門委員会を開催いたします。

私は、事務局の政策企画課の北島と申します。

はじめに、委員の皆様の出席状況について御報告いたします。本日は、ウェブ会議システムによる出席の委員を含めまして委員6名中6名の委員に御出席いただいております。委員総数の半数以上を満たしておりますので、政策等の評価に関する条例の規定に基づき、会議が成立することを御報告申し上げます。

次に、配付しております資料について確認をお願いします。本日お配りしている資料は、次第、名簿、座席表のほか、資料ナンバー1、令和2年度政策評価等の実施状況について、資料ナンバー2、岩手県総合計画審議会、令和2年度の年次レポート(案)を配付しております。御確認をよろしくをお願いします。

また、本日の会議の公開、非公開についてであります。意思決定の過程における審議であり、未成熟な情報を扱うため非公開での開催としておりますので、併せて御報告申し上げます。

それでは、条例の規定によりまして、会議の議長は専門委員長が務めることになっておりますので、以後の進行は吉野専門委員長にお願いいたします。

2 議 事

(1) 令和2年度政策評価等の実施状況について

○吉野専門委員長 おはようございます。ウェブ会議での参加先生3人、ありがとうございます。今回実はウェブ会議を本格的に導入するのははじめてでございまして、今ここの県庁の12階の会議室と、各先生の恐らく研究室と思われる場所を4元でつないでいます。

こちらの会議室は、通常の会議の形態の座席になっておりまして、私が今ここにいまして、こちら側に市島委員と工藤委員がいらっしゃいます。こちらにお二人います。それから、反対側の方に先生方のお席だけが用意されていまして、お名前がある状態ですが、先生方は、そこには今座っていないという状態です。

それで、コの字になっているのですけれども、コの字の向こう側に今たくさん映っていらっしゃる県庁の方々の方が30人ぐらいいる状況です。これは、通常の会議と同じ状況になっています。それで、今カメラがぐるぐる回っているのは、これは自動ではなくて、そこに、見えないところに職員さんが1人いまして、発言をする先生のところにカメラがぐるっと回るようになっています、こちらの県庁の方は。ただ、先生方は常にお顔が大きく映っていますので、先生方のお顔を見逃すことは、こちらからはないと思います。

それから、私の後ろに、こちらの左の方に大きなスクリーンがありまして、大きなスクリーンの方に先生方のお顔と、私が今映っているほうの会場の状況が映っていて、県庁の皆さんはこの大きなスクリーンを御覧になりながら会議に参加しています。それから、市島委員と工藤委員もこの大きなスクリーンを御覧になりながら、先生方とコミュニケーションをしています。

ただ、私が今大きなスクリーンのちょっと前にいる状況から、ぐるっと振り返らないとそこが見えないということで、今手元に小型のパソコンを置いてもらって、私は左の前を見ながら、この辺ですね、このパソコンに先生方が映っている姿を確認しながら議事を進めていきます。ですので、先生方からもしお手が挙げた場合、見逃すことはないと思うのですけれども、音声も聞こえますので、御意見があるときはお手を挙げ、お声をかけていただければ、こちらから御指名したいと思いますので、御協力をよろしくお願いいたします。

ということで、何分初めてなものですので、不慣れな点がいっぱいあると思いますけれども、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、ちょっと前置き長くなりましたけれども、議事に入っていきたいと思います。遠隔の先生方におかれましても資料はそろっていると思いますので、次第の議事(1)、令和2年度政策評価等の実施状況について、まず事務局から御説明をいただいた後に、委員の皆様から御質問、御意見をいただくようにしております。

それでは、事務局の方から御説明お願いいたします。

〔資料No.1、No.2に基づき説明〕

○吉野専門委員長 御説明ありがとうございました。

あちこち多岐にわたる内容ですけれども、特にどこからということは、こちらから指定しませんので、御質問ある箇所あるいは御意見ある箇所、どんどん挙げていただいて、御発言いただければと思います。御自由にですけれども、お手を挙げていただければ、こちらから指名いたしますが、いかがでしょうか。

では、こちらの工藤委員、お願いいたします。

○工藤委員 感想という感じなのですが、余暇時間とか、今回マイナスになる、評価が下がる要因となっている項目が結構、実は今余暇時間を増加させるための働き方改革

となっていますけれども、コロナの影響がやっぱり大きいのではないかなと何となく感じました。働き方も、皆さんとのコミュニティーがうまくいかないのも、やっぱり感染を避けた形で、いろんなことが動いているので、自由に動き回ることができない。第1号目の方がキャンプに行ったことですら責められるような状態で、何か自分たちが楽しむことをやっていいものかどうかというのを悶々としていることが、実は根本にあるのかなとちょっと思いました。あくまで感想です。すみません。

○吉野専門委員長 事務局、いかがでしょうか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 指標の達成度の話だけをすると、余暇時間の達成度がDになっていますが、これは令和元年度の達成状況ですので、コロナの前ではあるということではあります。評価するに当たっては今年度前半のコロナが発生したときの状況も踏まえて評価を行っています。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。さっき言ったアンケート調査も、今年の1月から2月にかけて600人の調査あるいは5,000人の調査を行ってしまして、ぎりぎりコロナもあったかもしれないので、多少の影響があったのかもしれませんが、本格的な影響までは恐らく時期的にはその前で調査が終わっていたので、もしかすると今年というか、来年の1月にやる調査だと、今のような影響が見られる可能性があります。令和元年度あるいは令和2年の1月に行った調査ということなので、幾分あるぐらいかなとは解釈していました。よろしいですか。

○工藤委員 はい。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

そのほかの御発言はいかがでしょう。

では、斉藤先生お願いします。

○斉藤副専門委員長 聞こえますか。おはようございます、斉藤でございます。御説明ありがとうございました。

今御説明いただきました幸福感に関する本体の18ページ以下で、心身の健康のみが分野別実感として上昇にあると書いてあるのですが、この要因はどういったところにあるのでしょうか。

○吉野専門委員長 箇所分かりますか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 27ページに実感が上昇した分野ということで、心身の健康の実感のところを整理していますけれども、(1)の①のイのところの丸の2つ目ですね、令和2年県民意識調査と前年調査との比較で、有意に変化した属性は表18のとおりであり、要因としては補足調査の結果から、睡眠、休養、仕事、学業、運動などの暮ら

しの時間配分などが推測されたところです。

○**齊藤副専門委員長** 何か県としての取組をされ、その結果によるということでしょうか。

○**北島政策企画部政策企画課評価課長** 特にこの事業でこうなったということはないと思いますけれども、いろんな取組の結果がこの結果に反映されているものと思われま

○**齊藤副専門委員長** ありがとうございました。

○**吉野専門委員長** よろしいでしょうか。

そのほかの御意見いかがでしょうか。

○**吉野専門委員長** では、西田先生お願いします。

○**西田委員** 御説明ありがとうございました。西田です。よろしくお願いします。内容面ではなくて、表現に関する事で2点教えてください。

1つ目は、本体の5ページのところなのですが、表になっていて、健康・余暇の5つの政策項目が並んでいるところで、3番の「介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境をつくりま

○**北島政策企画部政策企画課評価課長** はい、分かります。

○**西田委員** ここは、「概ね順調」と書くのか、それともまだ決めていない何かがあるのかというのを教えてもらえればというのが1つ。

○**吉野専門委員長** では、まずそこだけ先に、事務局分かりますか。では、答弁あります。

○**北島政策企画部政策企画課評価課長** 「0」になっていますが、これは「概ね順調」の誤りでございます。単純なミスでございます。

○**吉野専門委員長** 「概ね順調」という言葉が入るはずが、間違っ

○**北島政策企画部政策企画課評価課長** 失礼しました。

○**吉野専門委員長** 本編作るときは、直すということによろしいですか。

○**北島政策企画部政策企画課評価課長** はい、直します。

○吉野専門委員長 御指摘ありがとうございます。

その次、では先生お願いします。

○西田委員 もう一つは、表記の話なのですが、評価区分が順調から遅れまでの4区分ま
ずあって、それから目標達成度がAからDまでの4区分ありますけれども、この評価区分
と目標達成度の関係についての表記というところが、本体で言うと28ページのところに達
成度の判定区分がAからDまで100%以上とか、80%以上とかと書いてあるのですけれど
も、概要版をまずほとんどの人が見るのかなと思いますと、概要版の1ページ目の評価区
分が書いてある、この表になっている基本的な考え方のところ達成度80%以上というの
が目標達成率のAとBに当たるということだと思いますので、もしそういう説明が書ける
のであればそうしていただいた方が、評価区分と目標達成率というのの関係をぱっと理解
できるのではないかなという気がしたのですけれども、どうですか。これ、私の理解が違
うのか、そういう意味でいいのかというところからまず教えていただければと思うのです
が、お願いします。

○吉野専門委員長 では、事務局お願いします。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 この指標の達成度80%以上というのは、今西田先
生がおっしゃるとおり、達成A、それから概ね達成B、このA、Bのことを指していまし
て、御指摘いただいたので、この概要版についても達成度80%以上という表現に加えて、
AとかBとかというの分かるような形で修正を考えたいと思います。

○西田委員 ありがとうございます。よろしくお願いします。取りあえず以上です。

○吉野専門委員長 以上2点。ありがとうございました。たしか本編ではA、B、C、D
とアルファベットを使っている箇所は結構あるわけですが、概要版においてはA、B、C、
Dが出てこないというので、A、B、C、Dといわゆる日本語の順調、概ね順調、やや遅
れや遅れというものの関連性がはっきり分かるような形で修正していただくということ
でよろしいですか。ありがとうございました。

そのほかはいかがでしょうか。では、市島委員お願いいたします。

○市島委員 資料1の概要のところは何点かお伺いしたいと思います。

まず、2ページのところです。下の今後の方向というところなのですが、これは
いろんなところに今後の方向というところが出てくるのですけれども、これは若干感想な
のですが、方向性については、これで一通り各項目のこういう方向で行きたいというの
は分かるのですけれども、それをどのような時間軸というか、短期的なものとか、中期的な
ものとか、長期的なものとか、そういうふうに分けた方がいいのかなと思います。これは、
国も県も市も全部同じことなのですけれども、日本の政策はタイムリミットを設けないと
いうのが大きな問題だと思っていて、結局いつまでに何をするのか、いつまでという
のが基本的に出てこないというのが私の感想ですので、短期的にできるもの、中期的、長

期的にいくものと分類した方が今後の方向を示す、見た方にも分かりやすいのかなと思いましたが。

それから、4ページで、これは確認なのですけれども、(1)の評価結果のその他に分類されているものなのですが、その他の説明としては下の米印の1で、「現時点で指標の実績が未確定である項目等」とあるこの「等」というのは何なのかというのがちょっとお伺いしたいことです。結構その他のところでも、ほとんどないのであればいいのですけれども、結構な割合になっているものが、例えば家族・子育てとか、Ⅲの教育とか、あと結構な割合がその他に分類されているのですが、このその他、未確定である項目以外に「等」には何が含まれるのかというのをお伺いしたいです。

それから、3点目は、その下の(2)の今後の方向なのですけれども、これは(1)の評価結果を踏まえて今後の方向をお示しいただいているものだと思うのですが、拡充、継続、縮減、廃止・休止、終了という、それぞれ幾つ入っているのかというのは分かるのですけれども、これが(1)の評価毎に分類していただけるといいのかなと思いましたが。(1)で評価が低いものについては、これは拡充する方向なのか、やめる方向なのかということが見えると、より分かりやすいように思いました。

以上です。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。では、今の御指摘について、事務局の方からお答えがあればお願いいたします。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 1点目の今後の方向の書きぶりといいますか、時間軸、短期、中期、長期に分けて書いた方がいいのではないかという話につきましては、これは長期的な課題として検討させていただきたいと思っております。

それから、2点目の4ページ、事務事業評価のその他のところですけれども、この未確定指標である項目等の中身ですけれども、これは活動内容指標あるいは成果指標、どちらか1つのみに指標を設定しているものとなっています。通常どちらにも指標を載せるのですけれども、載せるのにはちょっとふさわしくないものがあって、どちらか活動内容指標だけだとか、成果指標だけだとかという、どちらか1つのみに指標を設定しているものを指します。

それから、3つ目ですけれども、この評価結果と、それから今後の方向が関連づけて分かるようにという御指摘ですが、研究させていただきたいと思えます。

○吉野専門委員長 先生、よろしいですか。

では、今後の方向というのは、今後というのはいつということですよ、きっと最初の質問は。令和3年度という意味なのか、あるいはこの4年間というか、計画期間、前、中、後に分かれていますけれども、4年間という意味なのか、あるいは全部足して10年間という意味なのか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 政策推進プランの評価をしていますので、基本はまず4年間。

○吉野専門委員長 まず4年。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 ええ、まず4年をベースにしています。

○吉野専門委員長 もし早急に手当てするものがあれば、もう令和3年でどんどん進めていくというようなことが分かると、読む方も一体いつまでやるのかなということがはっきりするかなということで、恐らく4年間というのが一番原則にはなるかなと聞いていました。

あと、その他のところは、確かに内容は分かりましたけれども、数が多いのですよね。例えばさっき市島委員に御紹介いただいたとおり、レポート概要の4ページですと、家族・子育てが20評価項目、教育が22評価項目で、その2つは特に多いということですね。ここがその言った2つの。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 ちょっと実際に見てもらいたいのですけれども、この本体の378ページの家族・子育て分野の事業番号、例えば169番、170番、171番を見ますと、定時制の通信教育運営費、貸付金の関係、あとは教科書の購入費の給付事業ですけれども、あと活動内容指標のところ为空欄というか、設定してなくて、成果指標だけ設定しています。対象生徒の給付割合というか、こういったものはその他に分類しているという整理にしています。

○吉野専門委員長 これは、時間がたってもずっとその他に置かれっ放しということになるわけですか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 そういうことになります。

○吉野専門委員長 それは、概要版の方にはそのような説明があるのでしたっけ。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 概要版には、未確定である項目等ということで、「等」の中に入っています。

○吉野専門委員長 実は未確定である項目等なのですね。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 等です。

○吉野専門委員長 別の事情で、その他と評価せざるを得ない項目があるということなのですね。確かに未確定というだけなら、いずれ分かるかとも読めなくもないと。むしろずっと、どうしてもその他にとどまらざるを得ない項目があるのであれば、それはそれできちんと記載すべきかというような御趣旨だと思いましたが、いかがでしょうか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 そうですね。記載したいと思います。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

そのほか御質問はいかがでしょうか。竹村委員は何かございますか。

○竹村委員 今のところはありません。

○吉野専門委員長 よろしいですか。ありがとうございます。

そのほか、1周回って。

では、斉藤委員お願いします。

○斉藤副専門委員長 度々失礼いたします。今の御質問に関連してですが、実施状況の報告書の概要版4ページ、ここに廃止・休止が今回2.2%とあります。文書の方を見ますと2.1%となっていますが、これは例年大体この程度の水準なのでしょうか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 例年大体この割合になっています。

○斉藤副専門委員長 分かりました。ありがとうございます。

○吉野専門委員長 これ2.1%と2.2%というのは、違って構わないですか。箱書きの中が20事業2.1、そして表の方が、下は2.1ですけれども、上は2.2となっているのですけれども。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 これは、下の行で見ていただきたいと思います。プラン構成事業と、それ以外の事業を足したA足すBのところ。

○吉野専門委員長 A足すBということで。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 A足すBのところを見ていただきたいと思います。

○吉野専門委員長 Aのみですと2.2になる感じ。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 そうですね。

○吉野専門委員長 分かりました。それから、今の御質問の趣旨は廃止・休止の大体割合、ほぼ2%程度ということで、特段多いというような意味ではないでしょうか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 はい、大体いつもこのぐらいになっています。

○吉野専門委員長 先生よろしいですか。

○斉藤副専門委員長 結構です。ありがとうございました。

○吉野専門委員長 ありがとうございました。

そのほかいかがでしょうか。

はい、もう一点どうぞ。

○斉藤副専門委員長 この政策評価には、行政改革が関係するような内容は入らないものなんでしょうか。

○吉野専門委員長 では、事務局いかがでしょうか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 行革につきましては、行政経営プランという別のプランがありまして、政策推進プランとは違うプランがありまして、そちらはそちらで評価をして、進捗管理しております。

○斉藤副専門委員長 体系が違うという理解でよろしいわけですね。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 そのとおりです。

○斉藤副専門委員長 分かりました。ありがとうございました。失礼いたしました。

○吉野専門委員長 ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。こちらの出席委員よろしいですか。

もう一個、どうぞ。では、市島委員、どうぞ。

○市島委員 この資料2の方についてお伺いしたいことが1点だけ、すみません。後の方がいいですか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 資料2も今の段階で。

○吉野専門委員長 今でいいですか。

では、どうぞ。

○市島委員 すみません。資料2のこれは概要版の2ページのところです。これは、部会の方で御議論されていることだと当然思うのですがけれども、これが公開されて、見る県民の立場からして、要望というか、意見なのですからけれども、まずこの平均値でいろいろ上がったとか、下がったとかということを見られているのですけれども、平均値が一番分かりやすいというのは分かりやすいのですが、私からするとこの分布が気になるなというのが

ありまして、同じページ平均値でも山が低いのか高いのかというところがあると、非常に分かりやすいなど。同じ平均値でも山が下がってなだらかになっている場合と、高くなっている場合とあったり、あるいは山が、こういうことはあまりないと思うのですけれども、必ず一山とは限らなくて、低い人と高い人がいて、二山になっている場合もあるので、そこが全て一山で分布をしているということであればいいのかもしれませんが、もしそうであればその記述があると、見る方としては平均値であっても議論は問題ないなどということが言えるなどということを思いました。感想です。

○吉野専門委員長 事務局、いかがでしょう。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 このレポートの本体の5ページを見ていただきたいのですが、本体の5ページの方には、「感じる」、「やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない」、「感じない」という分布を表しておりまして、ただ分析するときには平均値を用いて、基準年と比較してどうなのかということ进行分析部会の方で議論していただいたところでもあります。

○吉野専門委員長 5地点しかないということですね、点的には。だから、大きく山が2個に分かれるということは、実態としてはあり得ないというようなことだと思っておりますが、よろしいですか。

○市島委員 はい。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

そのほかはいかがでしょう。

では、私の方からも少し、何度も拝見しているのですけれども、気づいた点を申し上げたいと思います。今回の評価からは、いわゆる幸福関連指標というものが新しく前の評価にはなかった部分で加わっています。この幸福関連指標、このレポートの概要版で1番というのを、三角の山がついているところですが、横に青い字で幸福関連指標82本ありますよということと、政策項目に関連する幸福関連指標は同じ数で82本ということと、具体的推進方策の指標が555本と横に特出しされています。そして、この三角の山の中は、政策分野が10分野という意味ですね。それから、政策項目が50項目、具体的推進方策は203方策、一番下の政策推進プランを構成する事務事業は約800と書いていますが、こちらの方を見ると741と読めるのですけれども、つまりこの三角の山と、幸福関連指標というのがどうつながると言われると、我々はずっと議論してきたので、そんなにずれないで解釈できそうなのですから、この幸福関連指標というのが実は本体のレポートではまず前に来るのですよね、記述の順番として。

29ページからの記述は、具体的な記述はまず幸福関連指標を、例えばこの健康・余暇ですと11指標ありますと。そして、そのうちC、Dとなっていて、全体にここはやや遅れというような評価をいただいています。それが29ページ、30ページ、31ページで大体説明されていると、32ページまでですかね。では、32ページは政策項目の評価状況に今度

表が1つになっていますね。その後に、33ページからはさらにこの健康・余暇を、これは項目に分けているのかな。項目に分けて、1、生涯にわたり心身ともに健やかな生活ができる環境をつくります。それから、38ページからは2、必要に応じた医療を受けることができる体制を充実しますとなっているのですよね。

実は、32ページから33ページにかけて、要するにいきなり膨らむのです、ぱっと膨らんでいくというか、項目がこの分野ですと、全体では50なのだけれども、この分野の項目数で言うと幾つだっけ、5なのかな。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 5つです、はい。

○吉野専門委員長 その関連性がぱっと見よく分からなくて、つまり32ページから33ページの前に、例えば1ページあって、ここに5項目まずぱんとありますよと。その5項目の下には、各推進方策がぶら下がっていますよというような、見取図というか、樹形図というか、それがあると、これどこまで続くのだろうと思わないで、まずは健康・余暇分野はこういった項目群と、こういった方策群、さらに事務事業群というようなのがそれぞれの分野にあると、ちょっと見やすくなるかなと思ったのですけれども、いかがでしょうか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 そこおっしゃるとおりだと思っていまして、それを本体の5ページ以降に、それぞれの分野の体系図といいますか、5ページで言いますと健康・余暇分野の政策項目は、1番から5番、5項目あり、その政策項目1にぶら下がる具体的推進方策が①、②、③、ぶら下がっているということで、ここで表現をしたところですよ。

○吉野専門委員長 そうですね、ここ見れば、確かに分かるといえば分かるのですけれども、これだと政策項目と具体的推進方策まで並んでいるということですよ。本体の方ですと、これに事務事業評価も入ってくるのでしたっけ。例えば33ページ以下のところですかね。これは、政策項目と幸福関連指標も入っているのでしたっけ。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 そうですね。

○吉野専門委員長 だから、幸福関連指標は、ここは5本あって。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 具体的推進方策が35ページにある3つです、①、②、③。

○吉野専門委員長 3つで、はい。何かそのつながりがよく見えなくて、ここは、幸福関連指標が、もう一回言ったとおり5本ありますよと。ただ、具体的推進方策は3本ですよ。さらに、事務事業評価はその下にぶら下がりますよというような、幸福関連指標と三角の山の対応の関係というのがいま一つ、そしてぱっと見では見えなくて、そこが何かうまくつながるような一覧表みたいなのがあると。今年から始めた幸福関連指標ですので、幸福

関連指標の分野別数というのが、次のレポートの概要の2ページでは分からないのですよね。レポートの概要の2ページは、政策項目と推進方策の分野別分類評価一覧表ということにはなっていて、これは分かったのですけれども、幸福関連指標はどこ行ってしまったのだったけというような、ちょっとしたので。幸福関連指標も実は分野に張りついていて、分野毎に数が決まっていて、それを全部足し上げていくと82本になりますよというようなイメージでよろしいのですよね。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 そうです。

○吉野専門委員長 この82本が宙に浮いているわけではなくて、実はやっぱり分野と接続しているということが何か分かるようにならないかなと思って、眺めていました。特に白いレポート2020の本体が幸福関連指標から入りますので、記述が。これはどれだったけということが、なるべく短い時間で読んでいただいても頭にすっきり入るような記述の仕方もうちょっと工夫が必要かなと思っていたのですけれども、いかがでしょうか。

○廣田政策企画部政策企画課主任 幸福関連指標については、9月に御報告した指標の達成度ということで、主要政策の方で基本的には網羅されていて、それを踏まえた上で今回は評価を行っています。幸福関連指標以外の要素も含めて評価しているので、全体として評価しているため、今の調書の形になっているというイメージでした。

○吉野専門委員長 恐らく本体は、よく読めばそうなっているので、本体的には一覧表があればより分かりやすいと思ったのですけれども、本体は大丈夫なのですけれども、概要版の中で、いわゆる幸福関連指標、三角の横の青い字の82本という表記があります、ここに概要版の1ページの右側に。逆に言うと、この表記がなくて、その次はもう政策評価の実施状況になっていってしまうので、2ページ目からは。この評価レポートの概要版だけを御覧になる方々から見ると、これはどこにきくものだったけというように思われなかなというのをちょっと心配しているわけです。そういう意味で伺っていて、きちんとレポートの本体をちゃんと読んでくださる方にとってみればすっと入るのだけれども、恐らく概要版のみを御覧になる方の方が多いのかなと思っているので、幸福関連指標については別のところでまたきちんと説明をしていますよとなると思うのですけれども、今回から初めて評価の中に幸福関連指標を入れていくという新しい取組になっていますので、そこが、簡単に言えば県民の方々に伝わるような書き方というか、見せ方というのでしょうか、についてちょっと考えてくださればと思います。

○廣田政策企画部政策企画課主任 そこは検討したいと思います。

○吉野専門委員長 数だけでも分かればね。

○廣田政策企画部政策企画課主任 はい。分野を代表する幸福関連指標のような形で、例示をするなど、検討させていただければと思います。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。私からは以上です。

ほかの先生方はよろしいでしょうか。

どうぞ、西田委員。

○西田委員 西田です。大まかな話なのですけれども、1つ目は評価担当の方々に教えていただければと思うのですが、評価に当たってクロス・ファンクショナル・チームを構成して、政策の評価、立案を行っていらっしゃるということですが、今回やってみて、その効果をどう御覧になったかというところが1つ目です。

もう一つは、できればどこかの事業課の方に教えていただければと思うのですが、新しい評価方法についての感想とか、評価シートの使い勝手だとか、そういった面について、何かどう思われたかを教えていただければと思います。ちゃんと比べたわけではないのですが、何か文字数増えたのではないかなという気がしまして、私としてはシートの中で細かく文字で説明していただくと内容が分かるので、いいのですが、何となく書くことがもしかしたら増えたのかなという気がしたので、教えてもらえればと思います。

あと、もう一つは、ちょっと具体的には申し上げませんが、評価シートの中で課題と今後の方向というところがありまして、これそれぞれ政策分野、政策項目についてありますけれども、現状がこういう遅れがあるからとか、こういう問題が指標から見えたからこういう方向に進めていくべきだという、現状の遅れを明確に説明しておられる部分もあれば、遅れとかがはっきりしないからかもしれないのですが、今後の方向の方が課題に比べてより具体的な方策が書いてあるというのは分かるのですが、書き分けはやっぱりもうちょっとどうにかならないでしょうかと思ったような部分もあって、特に遅れている部分があるというところについては、もう少し課題のところにはっきり出していただくような書き方ができないかなと思ったというのが感想です。

以上、3つなのですけれども、よろしく申し上げます。

○吉野専門委員長 それでは、事務局お願いします。まず、C F Tのことですね。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 1点目のC F Tの関係ですけれども。

○吉野専門委員長 クロス・ファンクショナル・チームを略して、頭文字を取ってC F Tと言っていますが、そのことですね。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 はい。今回新しい計画で、10の政策分野を設定していますが、これは従前の部局縦割りの政策体系ではなくて、部局にまたがるような分野を設定していますので、こういうチームをつくって検討しているのですが、部局が一堂に集まって、いろんな評価を含めて今後どうするかというところを部局連携で検討しているというところが一つの効果だと思っております。

2つ目の調書への感想は、いいですか。政策さん。

○加藤政策企画部政策企画課政策課長 政策企画課の加藤と申します。クロス・ファンクショナル・チームにおいて、実際に部局横断的に検討を進めている中で、例えば健康・余暇の部分でございますが、県民計画上は余暇の充実をする施策のみを掲げておりました。例えば文化とか、スポーツとか、そういった充実だけを掲げておったのですが、今回D評価になってよくよく見てみると、どうも総実労働時間ですね、労働時間が岩手県の場合は非常に課題があるということがはっきりしましたし、あと介護の方も、50代の方、余暇時間が減って、介護時間が増えているといったところも明らかになったところでありまして、そういった政策分野以外のほかの分野、例えば、分野でいきますと仕事・収入とか、あるいは家族・子育てとか、そういったところの取組はやっていかなければならないねというのが確認できたのが一つのよかった点かなと思っています。

もう一つ、調書の作成上の負担感については、従前とそんなには変わりはないかなと、部局横断でありますので、関係課とのやり取りなどは生じておりますが。

○吉野専門委員長 こちらの方は大変だったという顔していましたが、よろしいですか。今日は、非公開なので、すぐにこの話が外に出すというものではないのですが、かなりやり方を大幅に変えてはいるのですよね。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 そうです。

○吉野専門委員長 だから、言ってみれば慣れていない仕事を今年度、今回の評価についてはかなりやっていただいたのは事実ではないかと思っております、もうどんどん、すいすいできたというのが、そうなっているかもしれませんが、いろいろ御苦勞もあったのではないかと思います、それは。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 特に 10 の政策分野の評価が追加になっていますので、従前よりは負担感はあるかと思いますが、こういう政策体系になっていますので、これは頑張ってやっていくということになります。

あと、課題と今後の方向のところですけども、基本的に 10 の政策分野の調書の表の 1 ページを見ただけで全て把握できるようにという設計をしまして、どの分野もこの 1 ページに収まるようにしてまして、もう少しその遅れがどこに生じているのかというのを深く見たいときには、1 枚めくってもらって、幸福関連指標の特記事項とか、そういったところを併せて見ていくことで、理解していただくという構成にしています。

従前は、この評価とか課題の方向というのは、全部読んで、最後に出てきたのです。最初から最後まで読むと、確かにと分かるのでしょうけれども、今回はもういきなり結論を前面に、1 ページにまとめるというコンセプトで作っていますので、御理解いただきたいと思っています。

○吉野専門委員長 いろいろ今年度からのやり方で工夫をされているということですが、西田委員、どうでしょうか。

○**西田委員** まず、1枚で分かるようにということについては、御苦労されて設定されたことだと思いますし、最初のページで分かるというのは非常にいいとは思っているのですが、課題をもうちょっとストレートに書けないのかなというのは、やっぱりずっと感じていることで、何々をするために何々する必要がありますというような書き方が課題のところにも多くて、何とかのために何々する必要がありますと。でも、その何とかのためにというところの前提にはできていないことがあって、問題だと認識している何かがあって、だからこういう方向に持っていくために何々する必要がありますというのが論理構成なのではないかと思うのです。何を問題だと認識しているかというところを、やっぱりもう少し課題の方には書いてもいいのかなというのが印象としては持っていて、今後また検討していただければと思います。要望です。

○**吉野専門委員長** いかがでしょうか。

○**北島政策企画部政策企画課評価課長** 今後の検討というか、何とかのために何とかする必要があるのできちんとして書けるような形に、今後ちょっとやっていきたいと思っております。

○**吉野専門委員長** ありがとうございます。
そのほか御意見はよろしいですか。

「なし」の声

○**吉野専門委員長** 特にないようですので、今の議事、令和2年度政策評価等の実施状況についての本編及び概要版について、おおむね御理解いただいたと判断いたしますので、細かい修正点少し、さっき記載のミスとか、そういうのも併せて最終版に向けて作っていただいて、お願いしたいと思います。ありがとうございます。

議事上は、その他（2）がありますが、事務局いかがでしょうか。

○**竹村委員** すみません。

○**吉野専門委員長** 竹村委員、どうぞ。

○**竹村委員** 全体的な話だと思って、発言をしていなかったのですが、1点、政策評価レポートの概要版の方の2ページから3ページにかけての今後の方向という、何行かで書かれている部分です。ここで、もちろん今後のことで、新型コロナウイルスに関する対策というのは必要だし、重要だということは分かるのですが、先ほどの時間軸をどの程度でやるのかということに分けたらどうかという委員の御指摘も、私はもっともだと思っています。1から10までの間に、それこそ1も2も、それから3も、5も、5つ、半分が最後の締めのところ新型コロナウイルス感染症対策の話が載っているわけです。

安全の部分では、具体的な今後の方策が出ているのですけれども、ほかは大まかな表現になっていると思います。もちろん今後のコロナウイルスの状況によって変わってくると思うのですけれども、できる限り具体策があるものに関しては、それを載せておく方がいいと思うのです。

というのは、今回の調査結果は、コロナ前の状況が反映されているのに対して、今年度（次）の調査はコロナ禍の影響を多分に受けた結果になるわけです。なので、来年度だけではなくて、今年度と再来年度をつないで考えていかなければいけないので、今後はコロナの状況で対応は変わるということを提示するだけでなく、むしろ安全のところの今後の方向のように、具体的なものがあるものについてはやっぱり入れておいた方がいいのかなと思いました。

ちょっと細かいところで、これを入れたらいいという発言はできないのですけれども、感想でもあります、以上です。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。では、事務局、いかがでしょうか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 この政策評価が前年度の指標の達成状況に加えて、評価時、現時点までの社会経済情勢を踏まえて総合的に評価をしまして、新型コロナについても、これはもう議会でもかなり注目されているところでもあるので、記載を入れているところになっています。安全のところ、具体的な対策とか書いているという話もありましたが、健康・余暇のところを見ても、新型コロナの関係でインターネット配信の関係とか、家族・子育て分野のところを見ると、テレワークの導入を含む働き方改革という形で載せているということで、御理解をしていただきたいと思います。

○吉野専門委員長 どうぞ。

○竹村委員 今健康・余暇のところ、「インターネット配信なども活用し」と言っているわけですが、例えばちょっときつい話ではありますが、今回のこの政策の評価についても、結局対面でやらないとできなかった事情というのが半年間続いたわけです。今回初めてリモートで参加させていただいて、それで県の状況を考えたときに、インターネット配信というようなこと、こういうような形でリモート会議ができるという状況を県自体が「今」構築している最中だと推察しています。

そうだとすると、この部分は具体的には、県のユーチューブを使った情報発信を多くするというようなことは実際にやっているわけでしょうから、むしろもうちょっと具体的な対策が入ってきて、いいのかなと思います。文化芸術に触れる機会の提供というところでも、安全のところよりは抽象度が高いので、来年度に向けて、今後の方針として、来年度の今頃に評価できるような何かをやっぱり書いておいて方がいいのかなと思うわけです。

以上です。

○吉野専門委員長 事務局さんいかが、今の御指摘についていかがですか。

○竹村委員 すみません。御検討いただければというだけです。

○吉野専門委員長 分かりました。御意見として、聞いていただいたということで進めたいと思います。

では、おおむね今回のレポート 2020、さらには概要版については御了解いただいたということで進めたいと思います。

ちょっとすみません。私、最後ちょっと気がついた点だけ1つ。このレポート 2020 の目次というのは、まだ仮置きになっていて、目次はページないのですけれども、2枚目の紙ですけれども、1、政策評価及び事務事業評価の実施状況について、それから第2、公共事業評価及び大規模事業評価の実施状況について、これは恐らく概要ということで前に出てくるという意味ですよね。その後、個別調書等と目次上はなるのですけれども、これは要するに1の政策評価及び事務事業評価の実施状況についての話をするわけですよね。そして、次の目次をずっと見ていきますと、四角囲いになっているので、分かると言えば分かるのですけれども、次の次のページで、大きな3が公共事業評価ということになって、これは要するに第2というものに当たるものですかね、前のページの。ですから、1、2、3と振るのか、やっぱり大きく2つに分かれているのですよと。レポートとしては一体化になりますけれども、前半のかなりの部分はこの1についてのの中身です、第1についてと。そして、後半の公共事業及び大規模事業評価については2に当たるというのが何か分かるようにならなければなど。

というのは、こちらも通し番号で来るので、最後7、公共事業評価、大規模事業評価実施状況と、概要版の方の数字も通しで打たれています。そうすると、実は2から6は一つのまとまりになっているのではないかなと。1は、全体のことを言っているのかな。それで、要するにこれには、今言った政策評価事業、事務事業評価と、公共事業評価、大規模事業評価、両方中に入っていますということが1で言いたいのですよね。でも、2から6は、前半の部分の話をまずさせていただくと、7は後半の部分をしていくと。通し番号を振ってしまうと、何か全部独立しているように見えていて、7つもあるのだとなるよりは、大きく前半と後半と分けて書いた方が私はいいかなと思いました。ちょっと御検討いただければと思います。

2から6が終わったところで、さっき言った幸福関連指標と、分野項目、事務事業の一覧表があると、なるほどと。10個に対して、これだけの数が割り当てられているというのが分かるかなと。今この一覧表は、特にこっちの方にはついていて、こっちの概要版にはピラミッドの形しかまだ見えてこないもので、それぞれの10分野についてどういう指標、数でいいと思うのですけれども、指標の数と項目の数、推進方策の数が一覧表で見えると、何かそういう体系は比較的把握しやすいと。それは、もう資料的な扱いで入れておくと、公共事業、大規模事業評価の前の方がいいのかなと思ったのですけれども、ちょっと御検討いただければと思います。最後、やっぱり7というよりは、別の数字の方がいいのではないかなと、そこだけちょっと指摘させていただきました。

すみません。自分で閉じておきながら、ついでの御発言をさせていただきました。

(2) その他

○吉野専門委員長 それでは、もう一回戻りまして、その他はいかがですか。ありますか、事務局は。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 特にございませぬ。

○吉野専門委員長 事務局からは、その他はないということです。
先生方、委員の方々はその他、何かございますか。よろしいですか。

「なし」の声

○吉野専門委員長 それでは、今後のこともちょっと含めて、最後、御挨拶をお願いしたいと思います。では、お願いします。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 次回の専門委員会について御説明いたします。
第3回の専門委員会につきましては、親委員会である政策評価委員会と同じ日に、2月に開催する予定になっています。具体的な日程については後日お知らせしますので、御協力のほど、御出席のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。
以上です。

○吉野専門委員長 それはまたオンライン。まだ分からないか。

○北島政策企画部政策企画課評価課長 ちょっとまた検討しますが。

○吉野専門委員長 来年2月に行われる第3回目の専門委員会については、親委員会と一緒にやる。やり方については、コロナの状況にもよるとは思いますが、オンラインも含めて、今後また御連絡させていただくということによろしいですか。
先生方、オンラインでどうでしょう。御不便でしたか。3人の先生方、いかがでしょうか。竹村先生、どうでしたか。

○竹村委員 何か緊張しました。やっぱり会場で、雰囲気を感じ取りながら聞いている方が、話が分かるのだなというのが分かって、学習の気分が体験できて、疲れました。

○吉野専門委員長 ありがとうございます。

○竹村委員 でも、いろいろと分かることもありましたので。どうもありがとうございます。

○吉野専門委員長 齊藤委員はいかがでしたか、オンライン。

○**齊藤副専門委員長** 対面の方が、やはり先生方とやっぱり心が通い合うとといいますか、分かりやすいところはあるのですけれども、ただオンラインでも特に支障は、私は感じませんでした。

○**吉野専門委員長** ありがとうございます。

西田委員、いかがでしたでしょうか。

○**西田委員** 私も、音声も画像も問題なくよく聞こえて、見えて、大丈夫だったのですけれども、職員の皆さんがたくさんいらっしゃる中の反応みたいなのは、やっぱりちょっと分かりづらくて。

○**吉野専門委員長** そうですね。画面に映らないところで反応があるのですけれども、こっちでは見えるのですけれども、先生方からちょっと見えないですものね。

○**西田委員** はい、そこだけはちょっとやっぱりなかなか分からないのだなと思ったところですよ。

○**吉野専門委員長** 分かりました。ありがとうございます。こちらの出席先生方はどうですか、このミックス型。工藤委員はいかがでしたか。

○**工藤委員** ミックス型、いいと思います。ネットにつながっている先生方が支障がなければ、どんどん活用していくのがいいのではないかなと思います。

○**吉野専門委員長** ありがとうございます。

市島委員、いかがですか。

○**市島委員** 特に問題はないと。

○**吉野専門委員長** 特に問題はない。

○**市島委員** はい、大丈夫です。

○**吉野専門委員長** ということで、初めて半数の委員の方々がオンライン参加という委員会になりましたけれども、一応何とか意思疎通はできたと評価できるかなと思っておりまして、今後ともこういった形式もあり得ますので、事務局の方で御準備をお願いしたいと思います。

それでは、お戻いたしますので、お願いします。

3 閉 会

○**北島政策企画部政策企画課評価課長** それでは、以上をもちまして令和2年度第2回の

岩手県政策評価専門委員会を終了いたします。御審議どうもありがとうございました。

○**吉野専門委員長** 皆さん、ありがとうございました。